



福嶋浩彦さん(左)と宮野洋子さん

私たちがつくる地域の仕事

みんなで出資、経営して働く **協同労働** とは？

2 / 28 流山市生涯学習センター

協同労働の協同組合法制化に向けて、協同労働が地域にどのように貢献できるのか、その可能性を探り「協同労働の協同組合ネットワークちば」主催のセミナーが開催されました。ワーカーズコレクティブ千葉県連合会や労働者協同組合から106人が参加。

第1部は「協同労働って何ができるの？ ~法制化の必要性、市民事業の可能性」というテーマで、福嶋浩彦前我孫子市長と、宮野W.Co千葉県連合会会長との対談。第2部は3事業所からの事例報告でした。

対談 協同労働って何ができるの？ 法制化の必要性、市民事業の可能性

私たちがつくる地域の仕事 多用な事業を展開する(企)W.Co紙ふうせん



まず W.Co千葉県連合会の宮野洋子会長から「私たちがつくる地域の仕事」と題して、千葉県におけるW.Coの現状と「紙ふうせん」の報告がありました。「紙ふうせんは10周年を機に、リサイクルだけではなく食の事業を始めたいというメンバーの強い意思のもと、1年の準備期間を経て2号店をオープン。連合会の食部会の支援や、地域の人の応援があって実現した店でした。弁当や惣菜・レストラン・リサイクル・イベント開催など、地域のニーズに応じていく形で多様な事業を展開。若い人も障がいのある人も高齢者も力を持ち寄り、元気に楽しく生涯現役で働ける職場をめざしています」。

今後、法制化されれば、子育て関連の事業も協同労働の形で実現されていく可能性が見えた報告でした。

対談の中で特に印象に残ったのは、我孫子市で新しくスタートした「保育園待機児童ゼロ政策」と「ママパパ教室*」の事例でした。

ママパパ教室

従来は出産・育児の支援教室を行政が行っていたが、「助産士の会」から企画・運営のすべてを請け負う提案が出され、昨年からは実施。出産・育児のスペシャリストであり、臨床経験も多い助産士は、どんな質問や相談にも的確なアドバイスができ、非常に良い評価を得るようになった。民間に委託して、サービスの質が向上した顕著な一例である。

法制化を実現するために

昨年12月までに、千葉県の42の県市町村議会で「協同労働の協同組合法の速やかな制定を求める意見書(仮称)」が採択されています。さらにこの活動を広め、協同労働で事業を立ち上げるための中間支援組織づくりに向けて、連携していきます。



「働いて生きていく」という当たり前の権利が踏みにじられ、働く人が商品のように切り捨てられていく現実。「収入や仕事の中身より、まず職場を」という切実な声。残念ながらW.Coはこれらの声の受け皿になる力量はまだありません。しかし、雇われることに見切りをつけて事業を興す人は確実に増えています。資本を持ち寄り、自ら職場を作り出すという新しい「協同労働」を社会に提起し、実践していくことが、現在の閉塞した労働環境を変えていく力になるはずです。

回 転 木 馬 西 山 美 代 子

「市民の公共をつくる」サービスの役割分担と連携が必要



前我孫子市長の福嶋浩彦さんは「市民の公共をつくる」というテーマで話されました。

「①地域の中で必要なことは市民自らの責任で行い、市民のできないところを税金を使って行政がやっていく。②社会のサービスの担い手は、行政・企業・市民セクターに分けられるが、それぞれの役割分担と連携が必要。中でも非営利の市民セクターによって提供されるサービスの量が多いことが豊かな地域社会につながる。市民セクターとは、協同組合、NPO、ボランティア、町内会などを指し、中でも協同労働は、皆が出資し経営し、働いてつくっていく市民自治そのものである。③行政がコスト削減を目的に民間に事業委託するのは本末転倒。同一労働・同一賃金が大前提。誰がやったらサービスの質が良くなるか、行政は市民との対話を通して、より質の高いサービスに向けた手立てを見出していかなければならない」。

事例報告 私たちがつくる地域の仕事

「菜の花」
「労協若者自立塾(芝山地域福祉事業所)」
「風車」



(企)ワーカーズ・コレクティブ菜の花



参加者から、「菜の花」は、融資は受けたのか？ 出資金は？ 味のばらつきはどうしているか？ 長く続いているわけは？ などの質問を受けました。

味のばらつきについての対応は、「お客様に安心感を持って継続して食べてもらうには、安定した味が必要です。日によって味つけに濃い、薄いなどのばらつきが出ないように、統一レシピを作っています。惣菜メニューは一日約30品目。ローテーションを組み、デイリーリーダーは日替わりで、ガスコンロ8口を使い分け、すべての煮炊きを担います。他には助手が一人、切り場が一人、あとの4人はお寿司を巻いたり惣菜をパックしたりする係です。1時から2時の間はみんなでお昼を食べながら、食に関するアイデアや情報交換をしています」と説明しました。

事業は順調に伸び、去年は初めて売上実績5000万円を超えました。今後は若い後継者も育てながら、もっと地域に根ざして還元できるようなことを考えていきたいと思っています。 代表 藤田美砂

芝山地域福祉事業所 労協若者自立塾



成田空港のすぐそばにある若者自立塾。今、地域の人も巻き込んで、卒業生の働く場を広げる新しい挑戦が始まっています。グループホームやソーシャルエコファーム事業がそれです。この事業は(企)労協センター事業団(ワーカーズ・コープ)が中核となり、廃食油の回収や菜の花プロジェクトに取り組み、燃料、食品、石けん、飼料を作り、地域循環型社会をつくろうというものです。

ワーカーズ・コレクティブ風車



初めに立ち上げまでの経緯について話しました。資金集め、場所探し、助成金の申請書作りなどで苦労しましたが、今後は、印旛沼環境フェアで初の大口注文どんぶり1000個の予約が入り、また、千葉市のGONET「ゴミ3分の1委員会」の見学を受けたことがきっかけで、夏には千葉市のイベントで風車の食器が使われることになり、少しずつ仕事が増えています。

「風車」を始めたことで、学校に行かなくても、障がいがあっても自信を持って堂々と生きている若者たちに出会い、悩める私たち親が衝撃を受けました。親に十分認められて育てばのびのびと生きられるんだとわかり、自分のためにもこの事業を始めて本当によかったと実感しています。これからは社会保障も充実させ、若者が自立できる職場にしていきたいと考えています。「国が行っているニート対策など、批判も多いがどうなのか」という質問がありましたが、設立趣意書にも書いているように、「若者を社会に出すために訓練するのではなく、今のままで働ける場を作ろうという考えで、国のニート対策とは全く考え方が違う」ということをアピールしました。 代表 中村早和子

課題としては、そのつもりはなくても、スタッフの側がどうしても主導権を取ってしまう流れのようなものが起こってしまうこと。協同労働という考え方が理解され、浸透し、みんなで見分ち合う労働ができていければと思っています。

スタッフ 滝沢藍子